

とこちゃんとうた



挨拶

ご挨拶

わたくし、とこちゃんと申します。
とことこ歩くので、とこちゃんといいます。

昔のノートから発見された詩で、
試供本を作ってみました。

とこちゃんは、「考えすぎる」人なので、
哲人とさげすまれていました。
だから、詩人ではありません。

またの名をさすらいの文豪、斎藤カズおといいます。

過ぎ去った風

『過ぎ去った風』 一少年と地下室のころ一

忙しい街で見た夢
暗い地下室で歌っていたあの頃
ひどく汚い音を出して
いつもより悲しくはない顔をして
決まって君は隅のキーボード
僕は太鼓を叩く

また間違えた
そうじゃないと思いながら
時間が来たよ
はい終わりです

一番いい顔を作って
一番いい格好をしてみせる

過ぎた風に乗って
またどこからか
聞いたような歌が聞こえきた

あのまちは今でも
あの人は今でも
歌っているだろうか
あの詩（うた）を

過ぎ去った風に吹かれた
少年と地下室の頃

気まぐれな歌

『気まぐれな歌』

いつも思うんだ
真剣になると何も書けやしない
長い話もよしにしてくれないか
僕は嫌いだ

いつも思うんだ
ただの落書きが好きなんだ
面白くね、楽しくね

愛も同じさ
いつも考えているのは苦手
少しだけ感じているのが好きなんだ

夢も同じさ
ややこしく考えなければならないのはごめんだ
順序の必要なものも

今日はいい天気だから
気楽に行こうぜ
心弾めば
それでいいのさ

a wanton song
歌っているね

いつか見た夢かい
そんなものに用はない

いつか見た映画かい
そんなものはもう忘れた

a wanton song
聞こえていくるね

君の耳にも
Kiss, Aerosmithの頃がよみがえる

あの人

『あの人』

あの方は高校一年だった
地下鉄の階段から現れた
いつも何を考えているのか
さっぱりの人
めったに笑うこともなく
いつもゆっくりしゃべる

あの方は高校一年だった

あの地下室で
いつも楽しいのか
面白いのかわからない
いつも隣でピアノを弾いていた
たまに間違える

いつも素顔を見せないで
そして、笑っていた

あの方は高校一年だった

無題

『無題』

長い眠りのそのあとに
私は海を渡る風になった

名無しのバンド
暗い地下室のドブネズミ

光が目に染みる

境目

『境目』

Pictured life のほうがまだまだ
間違いは認めているから
Pictured life のほうがまだまだ
少しは気の利いた顔をしてられる

いつか来た道を帰ろう

僕は学者じゃない
〇〇学は犬も食わない
僕は学者じゃない
答えのない旅は嫌いだ
ただの受け売りで威張っている連中も嫌いだ

誰が線を引いたのさ
君は見たかい
海の上にも陸の上にも
僕は見なかったね
知らないうちにロンドンに着いてしまった

経済学も、哲学も、想像が創った幻想
誰が線を引いたのさ
僕は知らない

心の境目が見えたかい
昨日と今日の境目を見てしまったのかい
僕は気が付かなかったね
そのうちに15年も経って
僕は気が付かなかったね

君、今日と明日の境目を探しに行かないかい
僕はロンドンにでも飛んでいくよ
想像が決める
たぶん、そう

僕は、ただの日本人
僕には、見えなかったね
昨日と今日の境目が
僕は気が付かなかったね
彼女が行ってしまったのも

創造が神が運命が決めてしまったのさ
時間が決めたわけじゃない

誰かがどこかで線を引く



とこちゃんの詩（うた）

<http://p.booklog.jp/book/124351>

著者：とこちゃん

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tokochan3/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/124351>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト